

# 盛岡となん支援学校

## 研究テーマ

「つなぐ～個別最適な学びと協働的な学び～」

### 1 主題設定の理由

目の前にいる子どもたちの実態から、一人一人の子どもが主語になる学校教育をめざすべく、これまで以上に多様性を尊重し、誰一人取り残さないよう、様々なこと、ものをつなぎ、個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指す。

### 2 研究の目的

#### (1) 3年次計画共通の目的

児童生徒の多様化が進む中、「つなぐ」をキーワードにし、児童の実態に応じ、指導方法・教材の検討により、効果的な指導の実現、児童生徒の興味・関心に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む「個別最適な学び」とそこでつけた力を生かし、探究的な学習や体験活動を通じ、他者と関わりながら必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」の実現を目指す。

#### (2) 1年次の重点

基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得し、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するための効果的な指導・支援のあり方について検討する。また、学習が最適となるよう、児童生徒の興味・関心等、一人一人の実態把握の仕方について検討する。

#### (3) 成果の発信

研究の成果は、校内ネットワークを通じて共有すると共に、外部団体の研究会において発表する。

### 3 研究内容および方法

#### (1) 全体研究会

3年次研究の全体構想や今年次研究の構想について共通理解を図る。また教職員個々の研究実践の共有や全体研究の評価を行う。

#### (2) アンケート調査

職員のグループ編成のためのアンケート、児童生徒の変容についての調査(6月・12月)を行い、今次研究の成果や課題をまとめる。

#### (3) グループ研究会

##### ① 準ずる教育課程

「小・中・高をつなぐ～夢の実現プロジェクト」

発達段階に応じて、自分の在り方や生き方について考え、将来の夢の実現を目指す実践。

##### ② 知的代替の教育課程

「指導と評価をつなぐキャリア教育」

小・中・高をキャリアの視点で連続性・系統性のある指導でつなぎ、生き生きとした社会生活を目指す。

##### ③ 自立活動を主とした教育課程

「実態把握と授業づくり～となん式システムづくり～」

的確な実態把握等、一貫した共通認識のもと、日々の序業へとつなぐシステムづくり。

##### ④ 訪問教育部 つばさ

「学びをつなぐ教材・教具」

児童生徒のよりよい学びへとつなぐ、自分のよさや力を発揮できる教材・教具

##### ⑤ 訪問教育部 あおぞら・てんくう

「復学へつながる支援のあり方～関係機関との連携をとおして～」

個に応じた指導でみえてきたものを復学先につなぐ支援のあり方。

##### ⑥ 寄宿舎

「寄宿舎に生活における『個別最適な学び』とは何か～主体的で対話的な学びをとおして自分自身を考える～」

「なりたい自分」へつなぎ、獲得スキルを実際の生活につなぐ取り組み。

### 4 講演会

演題:「障害の重い子供にとっての教科指導とSスケールの活用」

講師: 福岡大学教授 徳永 豊 氏

期日: 令和3年8月3日(火)

参加者: 94名

### 5 他の教育機関との連携

(1) 第60回北海道東北地区病弱虚弱研究連盟研究協議会岩手大会(7月)

(2) 第59回東北地区肢体不自由教育研究大会福島大会(9月)

(3) 第67回全国肢体不自由教育研究協議会富山大会(12月)